

## 生計同一関係申立書

### ① 生計同一関係にあったことの申立

申立年月日：令和〇年〇月〇日 ※ この申立書の記入日を記載してください。

私と下記②の者は、下記②の者が亡くなった当時、生計を同じくしていました。

① 請求される方の住所、氏名

住所 〇〇市△△町 3-2-1

氏名 年金 花子

② 亡くなった方（被保険者、被保険者であった方）の住所（亡くなった当時）、氏名

住所 〇〇市〇〇町 1-2-3

氏名 年金 一郎 (①との続柄： 妻 )

上記①・②の方の状況に応じて、次の1～3のいずれか一つに○を付した上で、必要事項を記載してください。

1. ①と②は、住民票上は別世帯でしたが、住民票上の住所は同一でした。

【住民票上、別世帯となっていた理由を以下に記載してください。】

例) 国民健康保険料の計算の都合上、住民票は別世帯にしていた。

2. ①と②は、住民票上は別住所でしたが、実際は同居していました。

【住民票上、別世帯（別住所）となっていた理由を以下に記載してください。】

例) 一郎の転勤に伴い、一郎の転勤先で同居していたが、一時的なものであるため、花子の住民票の住所は異動させていなかった。

※ ①と②が同一住所であったことが確認できる郵便物や公共料金の領収書等を添付してください。

3. ①と②は、別居していました。また、住民票上も別住所でした。

(1) 別居していた理由を以下に記載してください。

例) 一郎は病気療養で施設に入所していたため、別居していた。

例) 一郎は単身赴任していたため、別居していた。

(2) 経済的援助の状況について、以下の㉠～㉣に記載してください。

- ㉠ ㉡ (亡くなった方) から㉠ (請求される方) に対する経済的援助の有無 (あり・なし)
- ㉡ 上記㉠で「あり」の場合にはその回数 (年・月 約〇〇回程度)
- ㉢ 上記㉠で「あり」の場合にはその金額 (年・月 約XXX,XXX円程度)
- ㉣ 経済的援助の方法・内容

例) 一郎から毎月〇〇万円の仕送り (送金) を受けて、花子は生活していた。

※ 送金による経済的援助を受けていた場合、そのことを証明する預金通帳等のコピーを添付してください。

(3) 音信・訪問の状況について、以下の㉤～㉧に記載してください。

- ㉤ 音信の回数 (年・月・週 : 約〇〇回程度・なし)
- ㉥ 訪問回数 (年・月・週 : 約〇〇回程度・なし)
- ㉧ 音信・訪問の内容

例) 花子が一郎の施設へ月〇回見舞いに行くとともに、身の回りの世話をしていた。  
例) 一郎が月〇回単身赴任先から自宅 (花子の住所) へ帰省していた。

4. 第三者による証明欄 ※ 上記1に〇をされた場合または生計同一関係証明書類を添付している場合は記入不要です。

上記の内容は、事実と相違ないことを証明します。  
また、私は上記㉠と㉡の者の民法上の三親等内の親族ではありません。

証明年月日：令和〇〇年〇〇月〇〇日 ※ ㉠の申立日 (記入日) 以後に証明してください。

住所 〇〇市〇〇町 5-4-6

氏名 連合会 太郎

請求者との関係  
または職名

民生委員

電話番号 03 - 5210 - XXXX

※ 法人 (会社、病院、施設等) ・個人商店として証明する場合は、所在地・名称及び証明者の役職名と氏名を記入してください。

- 以下のA～Hのいずれかの書類が生計同一関係証明書類となります。
- A～Hのいずれかの書類を添付する場合は、第三者による証明は省略できます。
  - A 健康保険等の被扶養者になっている場合：健康保険被保険者等のコピー (健康保険証等に記載された保険者番号および記号・番号を判別・復元できないようマスキング (黒塗り等) してください。)
  - B 給与計算上、扶養手当等の対象になっている場合：給与簿または賃金台帳等のコピー
  - C 税法上の扶養親族になっている場合：源泉徴収票または課税台帳等のコピー
  - D 定期的な送金がある場合：預金通帳、振込明細書または現金書留封筒等のコピー
  - E 単身赴任による別居の場合：辞令のコピー、出向命令のコピー、単身赴任手当がわかる証明書のコピーなど
  - F 就学による別居の場合：学生証のコピー、在学証明書など
  - G 病気療養・介護による別居の場合：入院・入所証明、入院・入所に係る領収書等のコピーなど